

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2024 年 8 月～12 月
派遣大学名	ボゴール農科大学	所属学部等	農学部食生命学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food Microbiology	TPN1221	3	グループワークが多いが、グループで積極的に会話をすれば問題ない。
Food Chemistry	TPN1211	3	日本で学んだことよりもより詳しい内容だが、テストは、復習すれば大丈夫。
Food Safety and Sanitation	TPN1321	2	授業 1 回の内容が多く、予習・復習をしなければ、少し難しい。
Indonesia Language	IPB1106	2	課題が多く、協力者が必要なため、少し苦労した。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	Food Microbiology		Food Safety and Sanitation				
08:00							
08:30							
09:00			Indonesia Language				
09:50							
10:00				Indonesia Language (practical)			
11:40							
13:00	Food chemistry						
15:30							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他				○	
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）： インドネシア人の英語は、速く、発音に特徴があるため、最初はとても聞きづらい。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他				○	
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地				○	
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について			○		
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応					○
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応					○
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか					○
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか					○
その他特筆すべきこと（任意記述）： アジアだけでなく、ヨーロッパからの留学生もあり、英語が良くできるため、積極的に話しかけると良い。					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

Food Chemistry では、食品の基本成分（タンパク質、炭水化物、脂質など）の機能やその応用について学び、食品特性への影響や保存・加工による変化を理解しました。Food Microbiology では、食中毒を引き起こす要因となる微生物を中心に学び、食中毒を防ぐための予防方法や食品の保温方法について学んだ。Food Safety and Sanitation では、食品中の微生物の名称や種類、その増殖と人体への影響について学習した。また、現地のレストランや食品工場を見学し、衛生管理の実践状況を調査することで、安全管理の重要性を理解しました。これにより、微生物が食品安全にどのように関わるかが具体的に学ぶことができた。また、全ての授業でプレゼンテーションがあったため、英語のスピーキング能力の向上ができた。Indonesia Language では、インドネシア語の基本的な内容について教授に教わると同時に、クラスメートや教授とインドネシア語で実際に会話することで、言語の基礎的な知識を身に付け、異文化理解も深まった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

実際に日本で受講していたことのある授業やその授業に関連した内容の授業を受講するようにした。インドネシアの大学の授業は、日本の大学の授業よりも授業時間が長いので、2 時間半の授業を 2 つ西、1 時間 40 分の授業を 2 つにすることで、バランスよく授業時間を合わせるようにした。また、Indonesia Language のクラスは、ほとんどの留学生が参加するため、海外留学生との交流であったり、友好関係を築くためにも履修した。正直、Food Microbiology と Food Safety and Sanitation は、内容が似ていることが多くあったため、どちらかを他の授業にしても良かったと感じた。また、日本で受講していない内容を含んだ授業も履修すればよかったと考えている。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

私は、留学をすることで、異文化の理解やグローバルな視点を得ることができた。実際に現地の学生や他国の留学生と交流することで、今まで自分が経験することのないことが多くあり、戸惑いはあったものの実際に体験してみると、自分の考えが小さい規模であったことに気づくことができた。私たちの生活も現地の学生からすると、驚くべきことでもあり、互いに学習・共有することができた。また、どんなに違った環境で育った人たちでも互いに理解し合うことで、いい人間関係を気づくことができることを改めて実感し、その面では、私が今回の留学で一番学習したことは、ヒトとのつながりの大切さであると感じている。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

留学で得た知識や経験を、自分自身の課題発見や解決方法の発見に活かしていきたいと考えている。留学以前の私は、ただ勉強するだけで、そこに明確な目的や背景を意識していなかった。しかし、留学を通じて「なぜ勉強するのか」「なぜ人との関わりが重要なのか」を深く考えるようになった。たとえば、多文化環境でのグループディスカッションでは、自分の意見を的確に伝えることや、他者の視点を尊重することの大切さを学んだ。これらの経験から、課題を見つけるためには自己を客観的に見つめ直すこと、そして他者との対話が欠かせないことを実感した。今後は、留学で培った知識や視点を活かして、自分の中にある課題を探り、その解決策を主体的に考え、行動に移していきたいと思う。このプロセスを通じて、さらに成長していきたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

私の派遣先大学は、クリニックの受診と薬の処方が無料でした。そのため、何か体調不良になったとしても、大学内のクリニックに行くことで、安心して生活することができた。また、大学では、定期的にイベントが開催されており、毎回、楽しむことができる。これらのイベントは、国ごとに発表会などがあるため、一度に他の国の文化を学ぶことができたり、自分の国の良さを広めることができる。それに加えて、ほとんどの学生が英語を話すことができるため、会話にもあまり困らず、日本が好きな学生が多かったため、積極的に話しかけてくれる。授業面では、クラスの中にアシスタントがいる授業もあるため、困ったときは助けてくれる。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

健康面では、無料のクリニックがあるため、あまり心配する必要はない。授業面では、英語開講ではあるが、ほとんどの教授の英語はとてもはやく、聞き取りづらい。しかし、ほとんどの教授がそのことを気にしてくれているため、もし聞き取れない場合は、遠慮なく問い合わせると良い。大学内はとても広いため、「poki」という大学内の青いヘルメットをかぶったおじさんたちに声をかけると、1回5000ルピアで大学内どこでも連れて行ってくれる。また、大学内の建物は名前などが紛らわしいため、事前にチェックし、写真を撮っておくと良い。大学内の食事は、最初はカフェなどにし、徐々に外経営のレストランにするとよい。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2024 年 8 月～12 月
派遣大学名	ボゴール農科大学	所属学部等	農学部食品化学技術学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food Microbiology	TPN1221	3	難易度は普通。グループワークが多かった。
Food Science	TPN1211	3	難易度は普通だが、授業中に小テストがたまにあった。
Food Safety and Sanitation	TPN1321	2	難易度は普通。グループワークが多かった。
Bahasa Indonesia		2	

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	Food Microbiology		Food Safety				
08:00			and				
09:00			Sanitation				
10:00			Bahasa Indonesia	Bahasa Indonesia			
11:00							
12:00							
13:00	Food Chemistry						
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	○				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>プレゼンテーション発表の日の講義は時間確保のためにかなり速いスピードで進んでいくため、予習復習が必須。次回分も講義を先に進めるというパターンがあるので予め準備をしておくといよい。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

授業は主に食品関係のものを取った。具体的には食品微生物・食品化学・食品安全衛生学について学んだ。

・食品微生物学

微生物の基本的な知識を始めとして、食品中での微生物の働きなどを詳しく学ぶことができた。また、病原性微生物や食中毒のメカニズムや発生についても学ぶことができた。

・食品化学

食品に関係する物質（脂質・タンパク質・アミノ酸・ビタミン・ミネラル）などの働きについて学んだ。また、発酵など食品をよりおいしくさせる手段についても学んだ。

・食品安全衛生学

病原性微生物や食中毒を中心として、検査方法、殺菌方法、業界別での安全管理について学んだ。また、インドネシアや他国の留学生に話を聞いてそれぞれの国の食事の食中毒リスクや、安全管理についても学ぶことができた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

留学生向けオリエンテーションの時にみんなで履修登録をする時間があるので、そこで同じメジャーの留学生と同じ授業を選択すれば安心して初回を迎えることができると思う。

授業は基本的に英語であったため、授業に関係する最低限の英単語は事前に勉強をしてから授業に臨んだ。また、グループワークもほぼ毎回あったため、授業の内容についても予習してから授業に臨んだ。しかし難易度は決して高くないので過度に身構える必要はない。

復習に関しては授業後に小テストがあったのでそれを行うことで復習としていた。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

まず初めに日本人の宗教観がとても特殊だという事に改めて気づくことができた。日本ではキリスト・仏教・神道などの様々な宗教が本来の形とは違えども混ざり合っているが、現地の学生や他の留学生は一神教のムスリムやキリストを信じているため、他の宗教のイベントは全く祝っていなかった。また、日本に比べるとどの国の学生も時間にアバウトであり、日本ほどせかせかしながら生活する必要はないのではないかと感じた。

「ありがとう」の返事が「sama-sama(same-same)」であるように、どんなことに対してもお互い様だという考えが根付いていると日々の生活から感じた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400 字程度）

インドネシアへの留学を通じて、多文化環境におけるコミュニケーション力や、異なる視点から物事を考える力を養うことができた。特に、簡単なインドネシア語の習得と現地の学生や他の留学生との交流を通じて、言語だけでなく文化や価値観の違いを深く理解する機会を得た。

これらの経験は、私の将来において大いに役立つと考えている。将来、国際的なビジネスや地域間の橋渡しを行うような職業に携わる際、異文化理解や柔軟な対応力が強みとなる。また、現地で学んだインドネシア語や文化的知識は、アジア市場との関係を深める上での重要なスキルとなる。加えて、他者との協力を通じて得た自信は、リーダーシップを発揮する際の土台となるだろう。

派遣先大学で特に良かった点（300 字程度）

IPB は良くも悪くも比較的田舎にあり、かなり現地に近い生活を送ることができた。キャンパスと寮をでると英語はほぼ通じないのはもちろんのこと、街中の露店やスーパーで買い物をして、場合によっては価格交渉を行うという経験まですることができた。

international office や Student buddies からのサポートはとても充実しており、オリエンテーションでは履修登録・ルール・キャンパスツアー・アイスブレイクなどが行われ、不安なく授業開始を迎えることができた。

イベントもとても多く、イベントを通して多くの学生と知り合い、仲良くなることができた。

分からないことは何でも Whatapp のグループで聞けば解決できた。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300 字程度）

International office や Student buddies からのサポートは厚く、現地の生活もしっかりと味わうことができるので、授業以外でも有意義な留学生活を送ることができると思います。特に Student buddies は優しく、親切に何でも教えてくれます。どこかへ遊びに行くときなどはぜひ Student buddies も誘っていったほうがいいと思います。

IPB 周辺はほとんど英語が通じないため、最低限のインドネシア語は覚えてからインドネシアへ飛び立つほうがいいと思います。

International office 主催のイベントや学生団体が企画するイベントもたくさんあるので、ぜひ参加して交流を深めてください！我々の代でイベントのために買った法被を 9 着ほど office に預けたので、もし必要ならぜひ使ってください。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2024 年 8 月～12 月
派遣大学名	ボゴール農科大学	所属学部等	農学部食品科学技術学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food Microbiology	TPN1221	3	グループワークが多くコミュニケーション能力が大事
Food Science	TPN1211	3	突然行われる小テストに向けて日頃の予習復習が大事
Food Safety and Sanitation	TPN1321	2	グループワークが多くコミュニケーション能力が大事
Bahasa Indonesia	IPB1106	2	覚えるのが大変だけどアクティブで楽しい

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	Food Microbiology		Food Safety and Sanitation				
08:00							
09:00							
10:00			Bahasa Indonesia	Bahasa Indonesia			
11:00							
12:00							
13:00	Food Chemistry						
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○	○		
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>プレゼンテーション発表の日の講義は時間確保のためにかなり速いスピードで進んでいくため、予習復習が必須。次回分も講義を先に進めるというパターンがあるので予め準備をしておくとうい。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他	○	○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：本当にお腹は壊します。その時は本当に辛いです。大学に無料のクリニックはありますが現地の薬が合わない人もいたので日本から市販薬を持参することをお勧めします。なにか困ったことがあったら international student office の人にすぐ相談することをお勧めします。</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

茨城大学で履修していた科目と似たような科目を現地で履修したのですが、授業の観点が違うと感じることが多くありました。例えば food safety and sanitation の授業では日本でとっていた食品衛生学と同じように食中毒やそれを引き起こす菌類に関して学修すると思っていました。しかし、それだけでなくその食中毒を防ぐには何をしたらいいのか食材や食品加工に使われる機器の洗浄に使う洗剤について、実際に食品会社の工場は食品の汚染を防ぐためにどういった対策をしているのか実際に足を運んで自分の目で見る課外活動があるなど幅広い視点から学修することが多かったと思います。また food chemistry ではインドネシアの伝統的な料理やお菓子を食べて味から含まれている成分を考察するという時間がありました。発酵食品が多く、アルコールの匂いがするお菓子が多かった。イスラム教徒でも発酵から生じたアルコールは摂取しても大丈夫であることには驚いた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

授業の時間が長いことによる情報量の多さ、授業スピードが速い、英語での授業など厳しいことが多かったので、予習、復習を欠かさずにやるように工夫しました。また英語を覚えることも大事だったのですが授業内容を理解するために Google 翻訳の PDF 翻訳の機能を使って講義資料を全部日本語に訳して英語のものと比較しながら勉強していました。またグループワークなども多く、プレゼンをしなければならなかったので分からないことはすぐ現地の学生に聞くようにしていた。

反省点としては、予習復習が遅れ気味になると一気に授業に置いて行かれてしまったことと、グループワークで最初の方は何をするのか分からず、班員に任せっきりにしてしまったことです。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

特に驚いたことは宗教です。インドネシアの多数はイスラム教でした。イスラム教についてほとんど知っているつもりでしたが、いざイスラム教徒の人と関わると知らないことが多く、さらに信仰度合いは人それぞれで何が良くてダメなのか人によって全く異なりました。最初は戸惑うことが多かったのですが、自分から聞いたり、調べたりして異文化理解を深めることができたと思います。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

日本の素晴らしい文化や技術を世界に届けたいと考えています。留学中、現地で見た日本企業やレストランが人々に愛されている様子を目にし、自分が褒められたかのように誇らしく感じる事が多くありました。また、アニメで日本語を学ぶ人や、文化祭で折り紙を紹介した際に多くの人が関心を寄せてくれた経験から、日本の文化に対する関心の高さを実感しました。これらの経験を通じて、もっと日本の良さを発信したいという想いが強まりました。現在、具体的な目標や広めたい分野は定まっていますが、これからの学生生活を通じて多くの分野に触れ、自分が最も情熱を持てるテーマを見つけたいと考えています。そして、それを活かして日本の魅力を世界に伝え、多くの人々に日本の素晴らしさを届けたいと思います。 派

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

私たちに関わる全ての人が親切だったことです。授業で同じグループだった現地の学生は、初めの頃授業のルールや進め方など分からないことがたくさんあった時も、自分から質問しようとする前に寄り添って丁寧に教えてくれました。その時英語が分からなくても簡単な英語で話してくれたり、翻訳機を使ってくれたり親切に接してくれました。またスチューデントバディも常に私たちのことも気にかけてくれていました。私たちはバディと授業が一緒じゃなかったので日頃会う機会はたくさんなかったのですが定期的に連絡をくれたり、休みの日はどこかおすすめの場所に連れてってくれたりなどとても親切でした。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

事前に調べて準備できることは徹底的にした方が良いでしょう。調べ過ぎる、準備し過ぎるということはありません。何か分からないことがあったら違う大学、国の留学先でもなんでも聞いて欲しいです。あとは日本のお菓子などの食べ物が人気なので留学に行くときはお土産として現地の人に配ると非常に喜んでもらえます。でもインドネシアの場合はイスラム教徒が多いので内容物に気にしないと食べられない人が多いので注意してください。最後に、お腹は本当に壊します。現地の薬でもいいと思いますが、体に合わないという人が多かったので日本から自分に合った薬を持っていくことをお勧めします。特に正露丸は優秀で、日本人だけでなく韓国人からも重宝されていました。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



お世話になった人達を寮に呼んで日本のカレーを振舞った時の写真です。



キャンパスの中を歩く行事の時の集合写真です。